JAXA の川口教授が資料 3-1 (IPEWG) を 8 分強で説明した後、5 分弱の質疑応答があった。(国際探査戦略 (GES) の検討グループ (ISECG) の前回会合の中で JAXA の「月・惑星探査推進グループが発案したもので、ISECG と合わせて開催する計画であったが、其れが無くなり、IPEWG 単独で開催された。)

松尾：何か質問等、御座いますか。

池上：此れ、学会との関係はどうなって、アカデミアとの関係ってのはどうなってるんですか。

JAXA 川口：此れは二つの面が御座いまして、先程申し上げた ILEWG、IMEWG と云うのが、実は性格が少し違います。ILEWG と申し上げますのはシンポジウム形式で御座いまして、謂わばプレナリーの会を開くと云う事で、サイエンスアッセンブリに近いもので御座います。IMEWG の方は此れはもうエージェンシー間の代表で構築されていまして、メンバーは 10 数名から 20 名程度で、此れはエージェンシー間の相互協力について協議する委員会形式で御座います。今回、IPEWG につきましては、此れは両方の機能を持たせる事が必要だなと思っておりまして、プレナリーに於いては科学成果に関して情報公開や、探査の構想を情報交換する場であります。其れからエージェンシーの代表を集めて、国際協働の、データの記録でありますとか、協働のミッションの企画のような調整を図ろうと、従いまして両方の機能を持たせたいと考えて居ります。

池上：そうすると、此処で論文か何かを発表すると、其れは例えばドクターを取ろうとする時にリファー出来るんですか。

JAXA 川口：其れに関しましては、ジャーナルの発行と云う事は現在は考えて居りませんので、其れについてはまあ難しいかなと思いますが、此れを踏み台にして関係の学会等でパブリッシュして頂くのかなと思っております。

池上：もう一件。今回アメリカ側の参加が多かったと云う事なんですが、聞く処に拠ると NASDA[1] 全体としては科学関係の予算が減ってると云う中で、NASA の研究者が沢山来たって云うのはどんな様な感じなんですか。

JAXA 川口：矢張りそのー、まあ、色んな面があると思いますけども、学際協働を探る動きが、先月も NASA の科学局長が来日して JAXA と協議をして居りまして、NASA は国際協働に向けて積極的な舵を切っていると云う事が一つで御座います。それからもう一つは、小天体と言うんですか、始原天体と云うのが、特に地球接近の天体に関しましては、パブリックの認識が、関心がかなり高いと云うのが御座います。此れは最終的な関心もそうで御座いますが、スペースガードと言いますか、地球に対する脅威、文明への脅威と云う事

[1] NASA と言いたかったのか、JAXA の旧称を使ってしまったのか分からない。「NASA」だとすると、予算削減の中で良く出張予算を認めてもらったと云う事になるのか。または、日本の金を当てにした国際協働ミッションに集まって来たのではないかと言いたいのか。JAXA の間違いだとすると、予算削減の中で大した事も出来ないだろう JAXA の為に、物好きにも良く集まったものだと云う事になるのか。

で、社会的な対応が必要だと云うのが米国のパブリックの関心事でも御座います。そう云う意味では有人での探査と云うのが、NASA でまあ、寧ろその、火星よりも始原天体、地球接近天体の方がタスクが容易だと云う風な構想が出されたりして居りまして、そう云う観点でまあ、此の探査と云う観点からも参加があったと、関心があったと云うことだと思います。

松尾：「所感」の最初の処にね、「日本がサンプルリターンを中心にすえた資源天体探査計画を検討していることが、大きな求心力になったと考えられる。」とあるんですが、此れ、何の事を言ってんですか。

JAXA 川口：この度の所感で御座いますので、主観で書かれているところが先ず先にお断りしておきたいと思いますが、此れは「はやぶさ」後継機の計画で、幾つか始原天体探査計画を JAXA としてはプロポーズをして居りますし、とりわけヨーロッパに対しましては、コズミックビジョンと云う科学探査の中で、此れはあの、ヨーロッパ側が主・従で言いますと従の方を担当するんで御座いますが、そう云う提案をして、非常に大きな関心を寄せられていると云う事が入って御座います。

松尾：必ずしも、他のロケットを探して来いと言われてる「はやぶさⅡ」だけの話ではないんだと、そう思っときゃ良い訳？

JAXA 川口：いや、あのー、他のロケット探すかどうかは、まあ、別としまして、そのー、国際的に強い関心が寄せられることは、此れはもう大変な、そう云う意味ではラブコールを受けていると云う事で御座いますので。

松尾：どうも有難う御座いました。